

0460 | アートマネジメント

4 単位 (通信授業 4 単位)

新見隆教授、加藤義夫講師

授業の概要と目標

ここで学習する「アートマネジメント」のアートとは「美術」を基本としたマネジメント講座である。そのアートの範疇は、絵画・彫刻・版画・写真・映像・インスタレーション・デザイン等を含む視覚芸術とする。

アートは、社会の様々な人々のサポートによって世の中に発信され、受信者としての鑑賞者や収集家がいいて、はじめて芸術として成立するものである。人々がアートに接することで、アートは市民社会の中に機能する。その意味においてアートは創り手と受け手の協働作業でもある。

アートマネジメントとは、アートと社会の橋渡しとして、展覧会やアートプロジェクト、アートイベントを企画制作することを最終目標とするが、アートの現場、例えば美術館・画廊等に接することが重要となる。

課題の概要

○通信授業課題 1

「文化政策及びアートマネジメントとは何か」についてレポートを提出する。

○通信授業課題 2

「美術館のアートマネジメントとは何か」についてレポートを提出する。

○通信授業課題 3

「地域社会におけるアートマネジメントとは何か」についてレポートを提出する。

○通信授業課題 4

「アートプロジェクトの計画から実施まで」をレポートにして提出する。

* 課題については学習指導書『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業]

1. 「文化政策及びアート・マネジメントとは何か」について考察する。
2. 地域の美術館を訪れ、美術館運営や展覧会のマネジメントについて調査し考察する。
3. 自分の住む地域の芸術文化活動を調査し考察する。
4. 美術館・画廊の見学と体験を通して「アートプロジェクトの計画から実施まで」をレポートにする。

成績評価の方法

提出課題の評価による。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

教材等

教科書：新見隆ほか『アートマネジメント』（武蔵野美術大学出版局 2003 年）

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017 年）

その他

自分の住む地域の博物館・美術館・画廊・寺院の宝物殿等を訪れ、鑑賞体験を積極的に行う。地域の芸術文化活動にアートボランティアとして参加し、アートの現場を体験することも重要である。